

# 図像にみる 16 世紀ブラジル植民都市のつくり方

兵庫教育大学連合大学院 川西光子  
兵庫教育大学大学院 中岡義介

## はじめに

周知のように、ポルトガルは 15 世紀からアフリカ・アジア・アメリカに進出して、各地に植民地を築き、植民都市を建設した。これは、長期の不況で国庫収入が減退し、貴金属の不足に起因する通貨危機が起き、これらの危機を海外への膨張によって解決しようとする機運が強まったからである。

1500 年、ポルトガルのペドロ・アルバレス・カブラルにより発見されたブラジルは、当初、上陸した地をサンタクルス（十字架の意）、大陸全体をベラクルス島（真実の十字架の島）と命名され、後にブラジルと呼ばれるようになった。

ブラジルにおける植民都市の建設は、砂糖生産を基礎とするカピタニア制（民間の力で開発する方式の一種）の成立以降である。ポルトガルによる植民都市建設は、スペインが行った植民都市建設とは異なり、何ら計画を伴うものではないとされる。

スペインによる植民都市建設に関しては、いわゆる「インディアス法」として成文化されていることもあり、研究がすすんでいるが、ポルトガルによるブラジルにおける植民都市建設に関する研究は、ブラジルにおいてもほとんどすすんでいないのが現状である。それは、長い間、アメリカにおけるポルトガルの都市計画には技術的標準が欠如している、と信じられてきた（Smith1940）ことにある。そして、ブラジル内外に存在するアーバン・デザインに関する情報やそれに対応する文書史料を無視する傾向を生じさせてきたために、書物以外の視点があることを忘れてしまっているのである。そうした現状の中で、ポルトガルの文書館にある利用可能な図像に関する調査をデルソン（Delson1997）が行ったことは、注目に値する。

植民地時代の町や都市がどのような姿であったかを読み解くのは、例え文書史料がある都市の場合でも、それのみによって捉えることは非常に困難である。そこで、本稿では、都市の図像を取り上げ、ブラジルにおいて都市建設がはじまった 16 世紀のブラジル植民都市が、

どのようなものであったかを明らかにしたい。ここで扱った図像は、『MAPA』（Adonias）に収録されているものである。そこには、1600 年代に図像専門家が当時の技術を駆使して実測した、ブラジル領土の形成が記されている。それらの図像から読み取れる内容はいくつかあるが、ここでは、植民都市のつくり方に着目し、1) 植民都市の立地と、2) 植民都市の空間構成を取り上げる。尚、ここでは、植民都市をシダージ（都市）に限定せず、ポボアサン（居住地）とヴィラ（町）を含むものとする。

## 1. 16 世紀植民都市の抽出

16 世紀に創設されたブラジルの植民都市について、アゼベード Aroldo de Azevedo は、17 あるとして、ブラジル全土の地図にそれらの植民都市と創設年をプロットしている（図-1）（Azevedo1970）。カピタニア制（1534～1548）の時代には、サンビセンチ、ポルトセグーロ、イガラスウ、イレウス、サンタクルス、オリンダ、サントスの 7 都市が、次の総督制の時代には、上記以外の 10 都市がつけられている。図-1 によれば、16 世紀の植民都市はすべからく大西洋岸につくられている。

図-1 16 世紀ブラジル植民都市

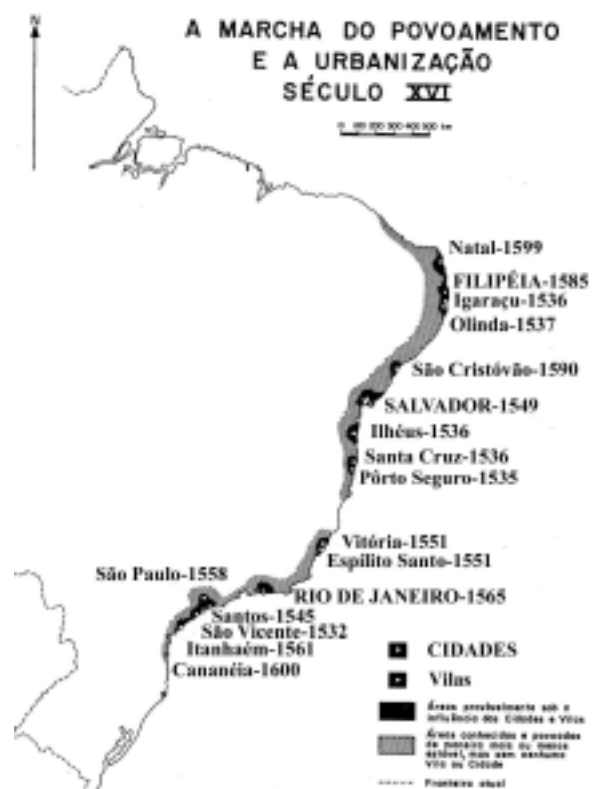


図-2 サンタクルスとポルトセグーロの図像



## 2. 都市の立地について

これら 17 の植民都市について、『MAPA』を用いて、対象図像の作製年、作成者、図像番号を示したものが表-1 である。表-1 によれば、都市が最も多く描かれているのは、アルベルナス (velho) による図像である。図像には、水利情報が主とされ、水深、航路、投錨地が描かれると共に、都市名、川名、島名、要塞名等が文字で記されている。海と都市との位置関係に着目して、これらの図像を模式化したものが図-3 である。これを見ると、都市の立地は、大きく次の 4 つに分けることができる。

大西洋に面してつくられている都市は、ポルトセグーロ、イレウス、サンタクルス、イタニャエンである。しかし、岩礁・浅海・島・崖に遮られ、海からの都市へのアクセスは容易ではない。中でもイタニャエンは、川からアクセスしている。

2 本の川に挟まれた場所につくられているのが、ポルトセグーロ、サンタクルス、イタニャエン、ナタール、ヴィットーリアである。川と湾との間につくられているのが、イレウスである。ナタールとヴィットーリア以外はすべて大西洋に面している。

湾を入った中につくられているのが、サルバドール、リオ・デ・ジャネイロ、エスピリットサント、サンクリストヴァン、カナネイアである。このケースとよく似ているが、湾に位置する大きな島につくられているのが、サンビセンチ、サントス、ヴィットーリアである。これらの湾の入口や湾内には大小様々な島が多数あり、海からの都市へのアクセスを複雑にしている。

湾に注ぐ川の上流につくられているのは、イガラスウ、フィリッペイア、サンパウロである。川を遡った上流につくられているのは、オリнда、ナタールである。これらにも島・岩礁・浅海があり、海からの都市への侵入を複雑にしている。特にフィリッペイア、ナタールへは、大型船が航行可能な水深のある川を利用したアクセスとなっている。

すべからく大西洋岸につくられている 16 世紀の植民都市は、図像分析からは、直接に大西洋に面した場所につくられているのは 4 都市だけである。残りは海から入り込んだ場所、あるいは川を遡った場所で、海からのアクセスが容易でない場所を選んでつくられていることがわかる。このことは、創設年代順に見ても大きな差異はない。

すべからく大西洋岸につくられている 16 世紀の植民都市は、図像分析からは、直接に大西洋に面した場所につくられているのは 4 都市だけである。残りは海から入り込んだ場所、あるいは川を遡った場所で、海からのアクセスが容易でない場所を選んでつくられていることがわかる。このことは、創設年代順に見ても大きな差異はない。

## 3. 都市の空間構成について

これらの都市に関する図像には、赤い屋根の建物が多く描かれ、尖塔や十字架の有無は明確で、山や崖の高低差は色の濃淡で表現しているが、道路は多くの場合描かれていない。このような都市の空間構成を模式化したものが、図-4 である。そこから次のようなことがわかる。

海岸や河岸から小高い丘や山に向かって都市が形成されている。それは、一般建物が海岸に平行に列状に配置され、内陸に向かって数段にわたって描かれたり、建物を積み上げたように描いていることからであ

植民都市名	図像作製年	図像作製者(生存年)	図像番号
サンビセンチ	1586	作製者不詳	V186
	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	186
	1666	ALBERNAZ, João Teixeira, o moço (1627-1675)	188
ポルトセグーロ	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	136
	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	108
イガラスウ	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	135
サンタクルス	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	136
オリнда	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	107
	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	108
サントス	1586	作製者不詳	V186
	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	186
	1666	ALBERNAZ, João Teixeira, o moço (1627-1675)	188
サルバドール	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	134
ピットーリア	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	158
エスピリットサント	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	158
サンパウロ	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	186
	1666	ALBERNAZ, João Teixeira, o moço (1627-1675)	188
	1586	作製者不詳	V186
イタニャエン	1586	作製者不詳	V186
	1666	ALBERNAZ, João Teixeira, o moço (1627-1675)	188
リオ・デ・ジャネイロ	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	172
フィリッペイア	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	108
	1634	VISSHER, Claes Jansz[oon] (1587-1652)	97
サンクリストヴァン	不詳	VOOGHT[Vooght], Claes Janz. (? -1696)	141
ナタール	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	90
カナネイア	1631	ALBERNAZ, João Teixeira, o velho (1602-1666)	185
	1666	ALBERNAZ, João Teixeira, o moço (1627-1675)	210

表-1 植民都市の対象図像

る。サンピセンチ、ポルトセゲーロ、イガラスウ、イレウス、サンタクルス、オリンダ、サントス、サルバドール、ヴィットーリア、イタニャエン、リオ・デ・ジャネイロ、フィリップペイア、サンクリストヴァン、ナタール、カナネイアがこれに該当する。

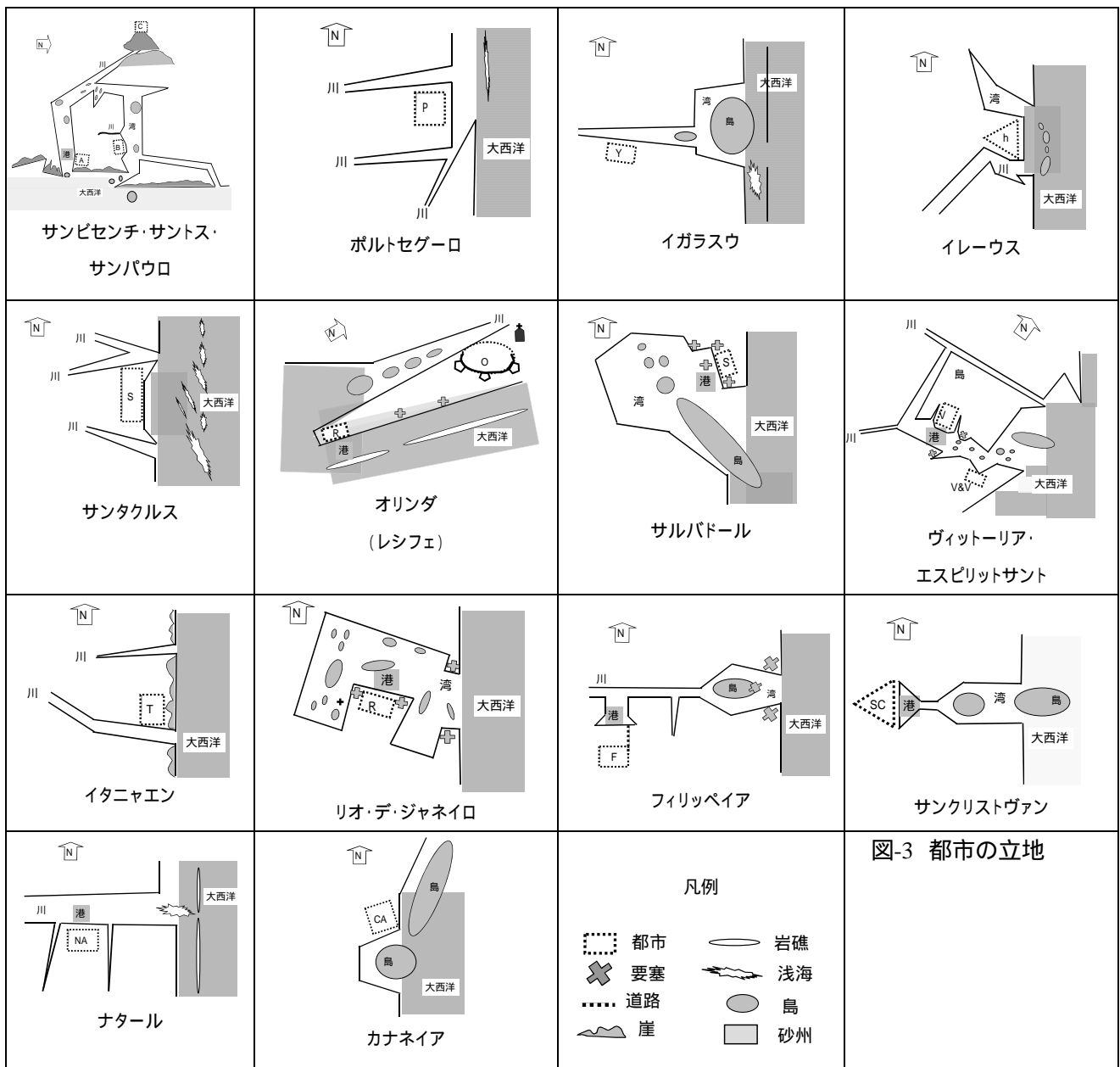
都市の前には港がある。サンピセンチ、サルバドール、ヴィットーリア、リオ・デ・ジャネイロ、サンクリストヴァンは湾に港をもち、フィリップペイア、ナタールは川に港をもち、オリンダはレシフェに港がある都市である。そして、これらの港をもつ都市には、必ずフォルチ（要塞）がある。

都市の高い場所に教会がある。サンピセンチ、イレウス、オリンダ、サントス、ヴィットーリア、エスピリットサント、イタニャエン、リオ・デ・ジャネイロ、フィリップペイア、カナネイアが挙げられる。

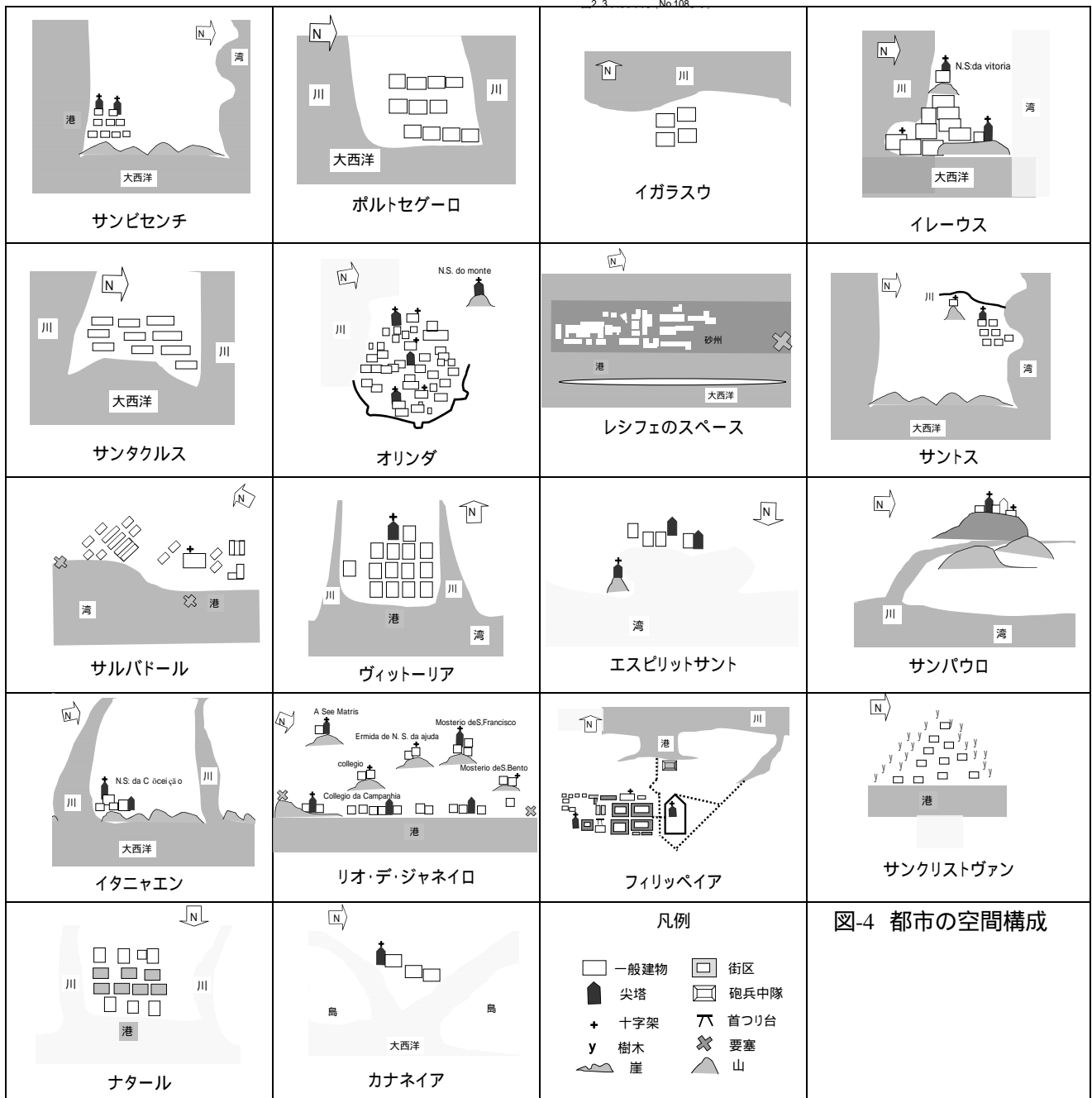
**まとめ**

ここであつかった図像は 都市の創建から 25 年から 100 年近く経った時点で作製されたものであるから、創建当時の都市の姿ではない。創建後の変化がどのようなものであったかはこれらの図像からは読み取れないが、ブラジルの都市建設は国土開発に伴ってたえず新たな地域に行われ、それまでの都市はいわば放置された状態で残されるから、100 年という時間の経過によって都市が大きく変わったということはないかと思われる。

図像を用いて、16 世紀ブラジル植民都市がどのようなものであるかをみていくと、海からアクセスが容易



でない場所に都市をつくっている。その理由は定かでないが、今までいわれてきたような都市を防御するためだけとは考えにくい。図像には水深の数値が海、川、湾内に記入されている。水深を確実に把握できる能力をもったポルトガルの海洋術があったからこそ、川の上流に位置する都市にさえも港をつくることができ、港をもつ商業都市をつくったのではなかろうか。都市の空間構成に関しては、別の図像から調査していく必要があると考えている。今後の課題としたい。



### 参考文献

- ・ Delson ,Robert Marx:*New Town for Colonial Brazil; Special and Social Planning of the Eighteenth Century*, Ann Arbor, Mich. Published for Department of Geography, Syracu University: University Microfilms Internacional,1997
- ・ Smith,RoberChester:*Aluguns Desenhos de Arquitetura Histórico Colonial Português*,Revista do SPHAN4;215,RJ,1940
- ・ Isa Adonias:*MAPA-IMAGENS DA FORMAÇÃO TERRITORIAL BRASILEIRA*,ODEBRECHT, RJ,年不詳
- ・ Aroldo de Azevado:*BRASIL A TERRA E O HOMEN* ,EDITÔRA DA UNIVERSIDADE DE São Paulo,1970